

NSTだより

さぬき市民病院
NST&嚥下治療センター
発行:2015年 5月 Vol.8

今月の編集担当：
嚥下治療センター



嚥下障害ってどうやって診断するの？

前々号では嚥下障害の兆候・疾患についてお話しました。では、嚥下障害はどのようにして診断するのでしょうか？嚥下障害を疑う場合は、下記の検査を実施し診断を行います。

診断のための検査には、大きく分けて**専門機器を使わない検査**と**専門機器を使う検査**があります。

●専門機器を使わない検査

嚥下障害が疑われた場合、まず専門機器を用いず行える簡単なスクリーニング検査を実施します。

- ① **問診**：本人や家族に対し、病歴・繰り返す肺炎の有無・食事場面の状態など嚥下障害を疑う症状の有無を聴取します。
- ② **観察**：口や喉の動き、食事場면을観察することで嚥下障害の有無を判定します。
- ③ **反復唾液のみテスト**：30秒間に何回唾液を飲み込む事ができるかを調べます。2回以下であれば嚥下障害が疑われます。
- ④ **水飲みテスト**：3ml・30mlの冷水を飲み込み、むせの有無・呼吸の変化などをチェックして嚥下障害を判定します。
- ⑤ **咳嗽反射テスト**：誤嚥した時に、咳がしっかりと出るかを確認します。

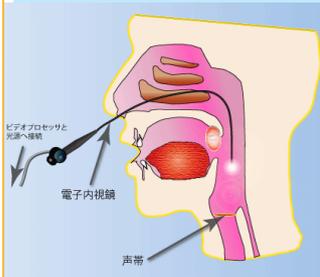


●専門機器を使う検査

詳細な評価が必要な場合は次の検査を行います。

① 嚥下内視鏡検査 (VE)

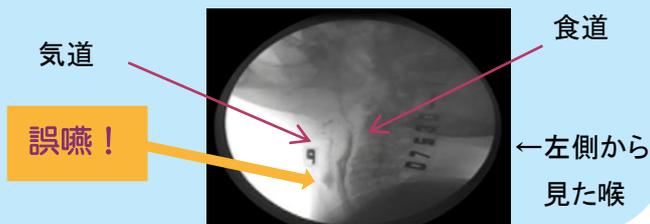
鼻からカメラを入れ、食べる場面の喉の動き・食物の動きを評価します。



飲み込んだ後に喉に食べ物が残っています！

② 嚥下造影検査 (VF)

X線透視下で実際に食べる場面の口や喉の動き、食べ物の動きを評価します。



気道

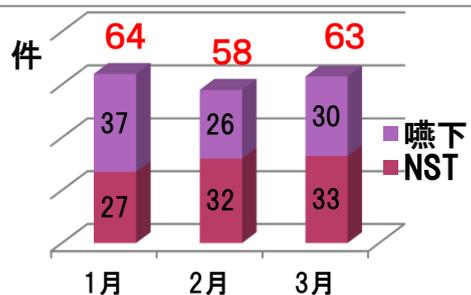
食道

誤嚥！

←左側から見た喉

編集担当 NST 言語聴覚士 大倉美保

月別栄養サポートチーム加算件数



2014年度は、1024名の方に回診し、840件加算とりました



講演会発表

名出言語聴覚士が発表！！



日本口腔看護研究会主催「第3回香川口腔ケアフォーラム」で「当院嚥下チームにおける歯科との連携」というテーマで講演を行いました。県内のみでなく四国3県、岡山、広島から105名の歯科・医科関係者に当院の取り組みを報告し、有意義な会となりました。